

全林研会長賞

福岡県

矢部村^{やべむら}愛林クラブ

所在地 福岡県八女郡矢部村

設立 昭和37年3月

会員 男23人

年齢 26歳～61歳 平均47歳

主なプロジェクト

誕生！ 林業体験学習が育む次世代林研の仲間たち
 （林業体験を通じての交流と後継者育成）

1. 地域の概要

私たち『矢部村愛林クラブ』が住む矢部村は大分県、熊本県に接する福岡県の最東南端に位置し、総面積約8,000haの村です。四方を峻険な山に囲まれており、県南地方の平地部に比べ雨量が多く、樹木の生育に適しています。

総面積の約87%が山林で占められており、明治35年頃から村の基幹産業として導入されたスギの植林によって人為の植生が拡大し、今日では山林の約90%が人工林です。

かつての基幹産業であった林業ですが、スギ材の価格下落などにより、山林を所有したまま林業をやめ、村外の町に移り住む人が増えました。最盛期だった昭和25年には6,251人だった人口も、現在は1,595人と4分の1までに減っています。これら村外の山林所有者の山林は管理されているものもありますが、多くは放棄林地として荒れ果てています。台風などの災害時には風倒木などが多く発生し、二次災害の原因となっているのが現状です。

また村外の山林所有者の多くは、林業後継者のあてのない立場の方が多く、所有者の高齢化に伴い、村内の森林組合などに管理を委託している方がほとんどです。が、一方で村内では人口の減少にともなう全体的な人手不足と林業経験者の不足に悩まされています。

矢部村の個人所有の山林は、村内外の後継者不足に二重に悩まされている

のです。村内の林業従事者で組織された矢部村愛林クラブもこの事態を憂慮しています。

2 .矢部村愛林クラブ

矢部村愛林クラブは昭和37年に村内の有志によって発足しました。村内での活動はもちろん、全国林業グループコンクール出場など、村外に向けての情報の発信を行いながら、今日も活動を続けています。

現在のメンバーは、農林業を家業とするものや、森林組合職員で構成されています。しかし、多いときには53名いた会員も、現在の会員数は約2分の1以下。愛林クラブ内でも林業後継者不足が問題になっています。

3 .現在の活動内容

現在の矢部村愛林クラブの活動内容は、

- 会員による山林の下刈り、間伐作業
- 年1回の視察研修
- 毎年秋に行われる矢部村主催『矢部まつり』に出店し活動PR
- 林業体験学習講座

などがあります。中でも大きな活動である林業体験学習講座は、林業後継者育成事業として村内の小学生たちに参加してもらい、植林、下刈り、枝打ちの体験学習講座を行っています。

4 .林業体験学習講座

矢部村では、林業後継者を育てる目的で林業体験学習講座を『おおそま自然塾』と名付け平成5年度から行ってきました。村内の学校、教育委員会や社会教育団体に対し、愛林クラブが積極的に働きかけ、塾をスタートさせたものです。

平成19年度からは、この塾をさらに発展させ林業後継者育成事業として行っており、対象は主に矢部村立矢部小学校の生徒たちです。

矢部村立矢部小学校は、全校生徒88名の全学年1クラスという大変小さな学

校です。会員たちも卒業した小学校であり、いわば自分たちの後輩と体験学習を行っているのです。

具体的な内容としては、1月に植林体験、2月に枝打ち体験、7月に下刈り体験を行います。

平成20年度の植林体験は小学生、会員、学校職員含め計65名。枝打ち体験は44名。下刈り体験は27名で行いました。

小学生たちは入学から卒業までの間、自分たちが植林したスギや、卒業した先輩たちの育てたスギを世話し、林業の具体的な作業の初歩を学ぶことができます。

体験学習を行う場所は村内の山林や会員の所有する山林で行い、会員たちが小学生たちの作業がしやすいよう、事前に場所を選定し作業範囲を決め整備を行います。

小学生たちと作業に参加した会員は、作業の内容を説明し、なぜこの作業を行うのか、また具体的な道具の使い方の実演や作業上の注意点を説明します。会員たちも日常的に行っていることとはいえ、いざ説明するとなると限られた時間に小学生にわかりやすく説明する難しさがあり、若い会員にとっても作業の指導という点で貴重な体験となっているようです。

また、先生たち学校職員は自分が知らない仕事の内容という方も多く、熱心に参加される方が多いようです。

主役の小学生たちは、最初は緊張からか皆、物静かに会員の説明をじっと聞いています。そして道具の使い方を習い、一人ずつ道具を手渡されると「これ、うちにもある」「お父さんも持っとらす(持っている)」という声が聞こえてきます。

そして、いよいよ現場の山林に列になって分け入り、互いに安全な間隔をとると作業開始です。

慣れない道具に戸惑い周りの友だちを見ながら立ち尽くす子、安全な間隔をとったはずなのに友だちや先生のそばに行き、立ち話を始める子。道具をうまく使えないためか道具を振り回し始め、先生や会員に注意される子もいます。

会員も、とにかく怪我人が出ないように細心の注意を払いつつ、「早よせんと、給食までに仕舞えんぞ」とか「スギまで切らんで良かつぞ」など冗談まじりに指導をします。

最初は戸惑いを見せていた子どもたちも、見様見真似で道具を使い始め、中には経験者なのか、それとも始めての体験に我を忘れてか、脇目もふらず作業をする子、教えてもらったばかりのコツを早速隣の友だちに伝授する子、中には手が止まっている子や昆虫などをみつけ遊び始める子もいますが、「なんばしょっと！早よせんと終わらんよ！」と注意する子も現れ、山林に元気な子どもたちと大人の声が満ちました。

作業が済むと会員が用意した差し入れが待っています。今年の夏の下刈りのときは、よく冷えたスイカと、会員の畑でとれた丸ごとのキュウリ、会員の山で採れたスモモでした。子供たちはそろって、「いただきます！」を言うと一緒に差し入れにむらがり、「おいしか！」の合唱になりました。自分たちの作業をした後を見ながら、村で採れた差し入れは格別だったようで、汗をかいてグツタリしていた子どもたちもたちまち元気になり、会員が「今度はお父さんと山に行かやんたい(行かなくてはいけないな)」と言うと「うん！」と返事をし、「来年もまた来たい」という声を多数聞くことができ、会員も満足いく体験学習講座になりました。

事業後は学校職員の方々に協力してもらい、小学生たちの感想文や先生方の意見を参考に、今後の作業内容の検討を行っています。また、作業した山林を会員で整備し次回の作業が継続するよう手入れを行っています。

5 .新しい仲間の誕生

後継者の育成を目指した『おおそま自然塾』、開始から16年の歳月が流れ、参加した子どもたちも成長しました。そして現在5名が村内の林業従事者として日々励んでいます。

このうちの1人は、平成18年に若い林業後継者としてUターンし、そして林研会員として仲間入りをしました。もちろん林業体験学習には新米講師として参加するなど、後継者の育成がさらに具体的なものとなってきました。

林研会員の勧誘・入会もゆっくりとですが着実に進んでいます。

またある者は、林研会員である父親とともに林業を家業としています。父親はもちろん、私たち林研会員も、待ちに待った新人の活躍と、次代を担う仲間として大いに期待しています。

6. 今後の展望

このように、以前小学生や林業未経験者として体験学習講座に参加した人材が、新たに会員として参加し、指導実演を通し、林業をより身近なものとして周りに伝えていくことが体験学習講座の長期的な目標です。

この活動から林業後継者が誕生することに期待をかけるのはもちろんのことですが、前述した村外の山林所有者の管理委託の面で、人手不足や林業経験者の不足の解消に役立てようと、今後も会の活動としての後継者育成を展開していきたいと考えます。

確かに体験学習をした方がそのまま林業後継者になってもらえる訳ではありませんし、後継者になる割合はごくわずかです。ですが、昨今の経済不況を好機と捉え、就職や進学を間近にした過去の参加者に体験学習の案内を勧める予定です。

また、現在は村内の人間をターゲットにしていますが、本年度から都市部の小学校や大学生も参加してもらう予定です。

村外からの参加者も徐々に増やし、都市部での日常生活では体験する機会が少ない林業を、より多くの若い方々に広め、かつての基幹産業である林業にわれわれも従事できるという意識を多くの一般の方にもってみたいと考えています。

林業が産業として地域を支え、地域が林業を支える人材を創出していく、そんな循環のある社会に、矢部村愛林クラブが中心となって貢献していくことを、会員全員がつよく望んでいます。